

最近の理科室から

寒くてこごえそうな日でも、日差しがあれば理科室はとても暖かいです。グランドの工事のときに



移した池の金魚も元気に泳いでいます。

金魚はフナの突然変異によって生まれたヒブナ(緋ふな)を人間が観賞用に飼育し、交配をくり返して誕生したといわれています。小さいうちは、先祖のフナの特徴をまだ持っているのか、池から移したばかりの時には、フナもたくさん混じっているのだと思っていました。だんだん大きくなって、金魚の色や模様が現れてきました。最近問題となっているのは、金魚や熱帯魚のグッピーな

ど、そこに元々はいなかった魚が池や川に放流される事です。金魚とフナの雑種ができて純粋なフナがいなくなってしまうたり、グッピーが繁殖してメダカなど日本の魚のえさがなくなってしまうたりといった問題が起きているようです。長い進化の歴史のなかで分布している生き物たちが、単に見た目がきれいとか、かわいいといった人間の勝手な理由で滅ぼされてしまうことをどう考えましょうか。動物を飼うのなら最期まで。絶対に外に放さないように心がけたいものです。

さて、キンギョと一緒に池から移した植物があります。パピルスです。カミガヤツリ(紙カヤツリ)ともいいますが、紙をつくるカヤツリグサ科の草という意味です。古代エジプトでこれから紙を製造したことは有名ですね。「紙」の語源パピルスが学名になっています



最後に、もののとけ方と結晶の勉強をした5年生が、私の持っている大きなミョウバンの結晶に興味を持ち、私の練習に協力してミョウバン結晶作りに挑戦してくれています。写真上のような小さな



種結晶からスタートして、約3週間で下のような状態になりました。いろいろ試して、うまくいく方法を一緒に探っています。どこまで大きくできるか楽しみですね。

[理科支援員 宮内]

【前号の答】 (あ)カヤ、 (い)クスノキ、
(う)カキ、 (え)メタセコイア、
(お)サクラ(エドヒガン)、 (か)タラノキ、
(き)オニグルミ、 (く)ヤブツバキ、
(け)ビワ、 (こ)ムラサキシキブ